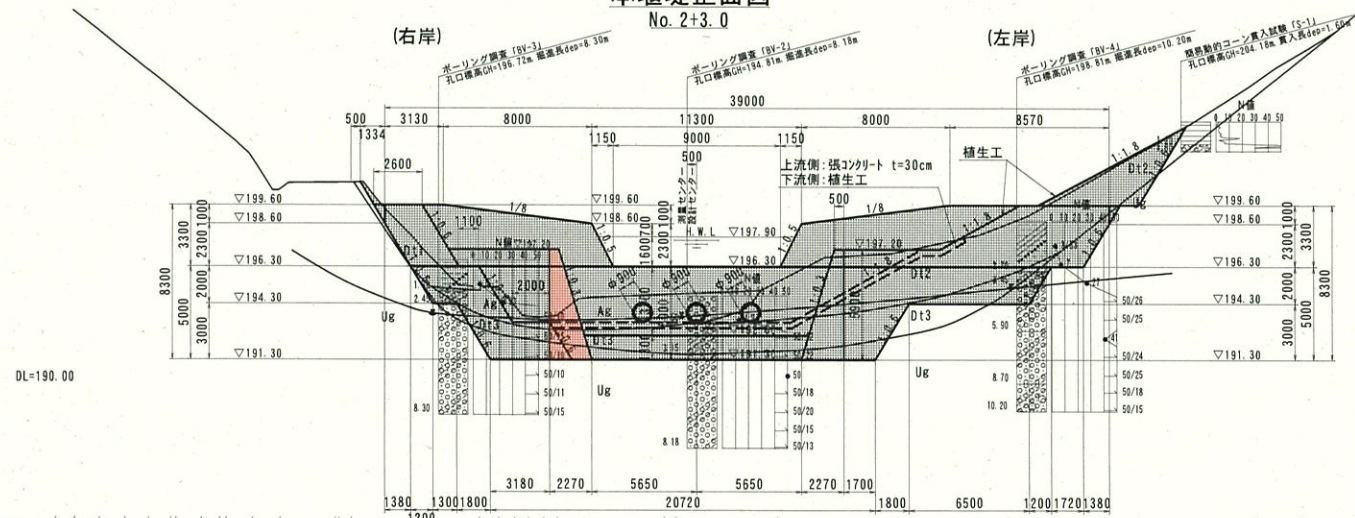
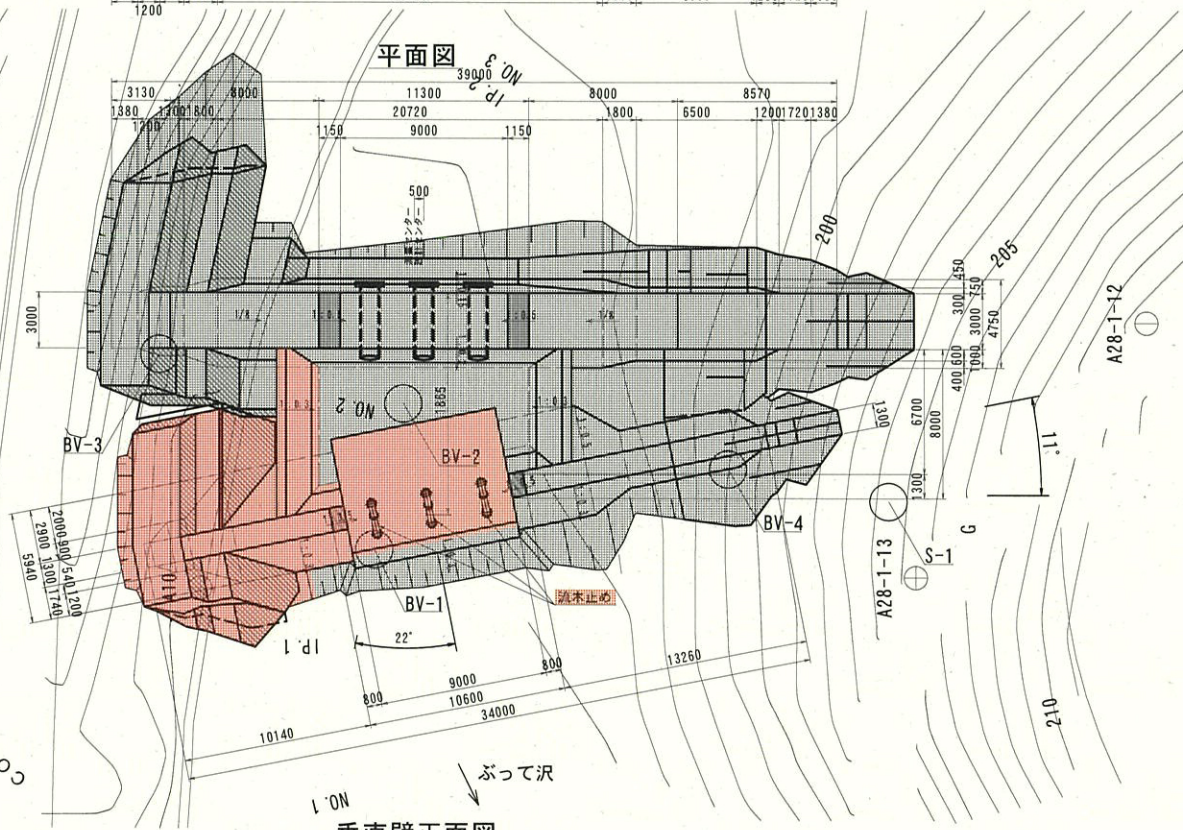


本堰堤正面図  
No. 2+3.0



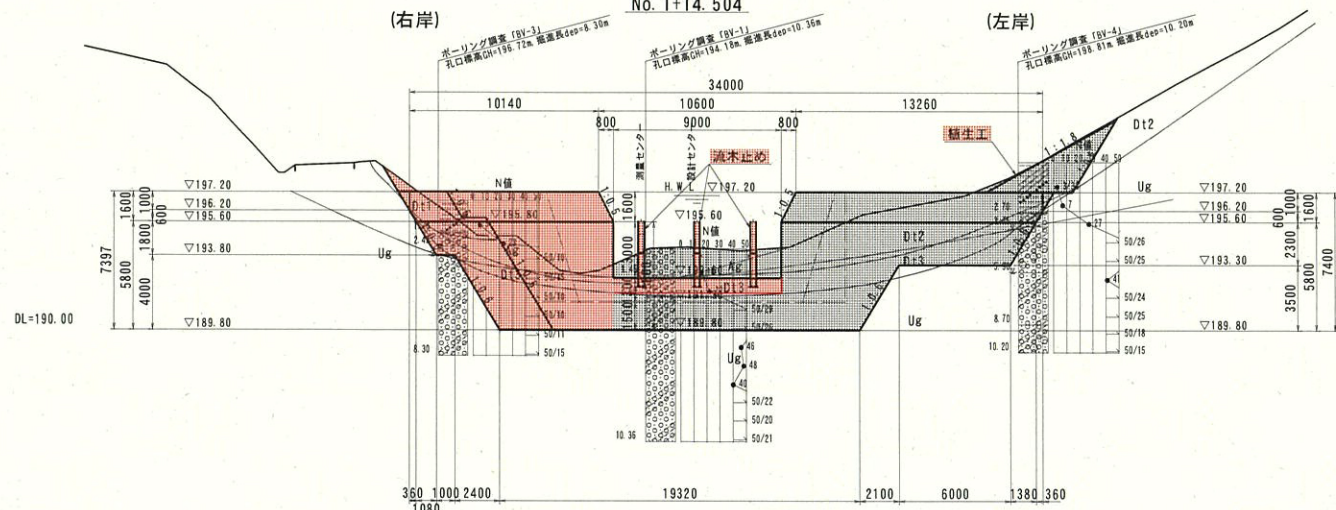
DL=190.00

平面図  
No. 2+3.0



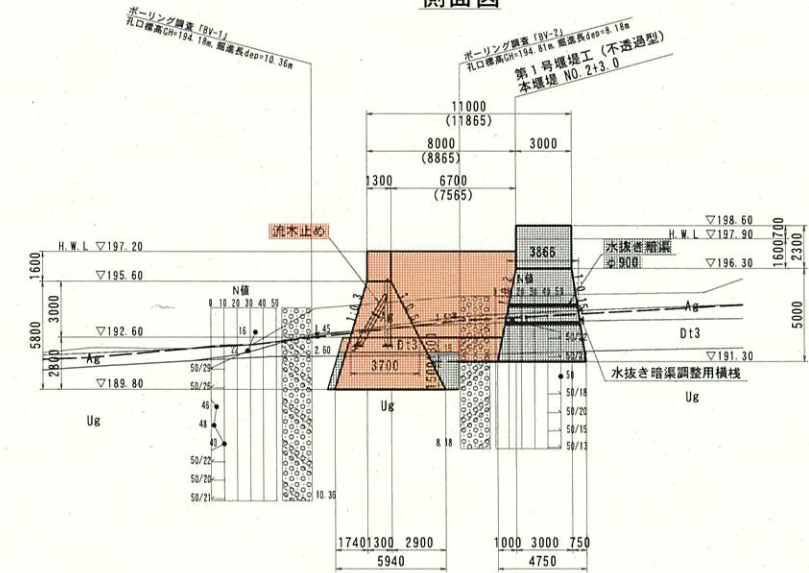
210  
205

垂直壁正面図  
No. 1+14.504



DL=190.00

側面図



DL=190.00

- ※1. 側面図の( ) 外数値は水叩き長さを表し、平面図上の左岸側壁部を示す。
- ※2. 側面図の( ) 内表記は設計センター線上の値を示す。
- ※3. 本堰堤は測量法線に対して11°、垂直壁は本堰堤に対して11°回転している。
- ※4. 河道測量法線と下流の河道流心線との成す角は22°である。
- ※5. 河道測量法線と堰堤～垂直壁間距離は一致しないため、施工時に留意すること。
- ※6. 施工時には、平板載荷試験により堰堤底面の支持力が魚沼層の300kN/m<sup>2</sup>であることを確認すること。
- ※7. 測線No. 2+3.0およびNo. 1+14.504の横断面図はペーパーロケーションからの作図のため、施工時には現地地形を確認すること。

【本堤～垂直壁】

・水叩き長さ

$$L = (1.5 \sim 2.0) \times (H_1 + h_3)$$

$$= 1.5 \times (3.7 + 1.6)$$

$$= 7.95 \text{ m} \rightarrow 8.00 \text{ m}$$

・水叩き厚 (水褥池無し)

$$t_1 = 0.2 \times (0.6 \times H + 3 \times h_3 - 1.0) / 1.12$$

$$= 0.2 \times (0.6 \times 5.0 + 3 \times 1.6 - 1.0) / 1.12$$

$$= 1.214 \rightarrow 1.3 \text{ m}$$

$$H_1 = H - t$$

$$= 5.0 - 1.3$$

$$= 3.7 \text{ m}$$

$$t_2 = 0.2 \times (0.6 \times H_1 + 3 \times h_3 - 1.0)$$

$$= 0.2 \times (0.6 \times 3.7 + 3 \times 1.6 - 1.0)$$

$$= 1.204 \rightarrow 1.3 \text{ m}$$

地質区分表

地質時代	地層区分	記号	代表N値	地盤定数			掘削勾配			
				単位体積重量 (kN/m <sup>3</sup> )	内部摩擦角 (°)	粘着力 (kN/m <sup>2</sup> )	許容支持力 (kN/m <sup>2</sup> )	仮設切土勾配	永久切土勾配	
旧河床	氾濫原堆積物	礫質土層	Ag	14.5	18.0	35.5	0.0	100	1:0.6	1:1.2
	崖線堆積物	粘性土層	Dt1	5.0	17.0	0.0	30.0	50	1:0.6	1:1.2
		粘性土層	Dt2	4.8	17.0	0.0	28.8	50	1:0.6	1:1.2
		礫質土層	Dt3	24.0	18.0	37.8	0.0	200	1:0.6	1:1.2
新河床	信濃川段丘堆積物 (即ノ木段丘堆積物)	Tu	-	-	-	-	-	-	1:1.2	-
	魚沼層	礫岩	Ug	64.4	18.5	38.5	59.3	300	1:0.3	1:0.7